



学校だより

令和3年度 9月号
令和3年 9月1日
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

みんなでほめ合う2学期

校長 小林 正樹



夏休みが終わり、2学期が始まりました。夏休み中、お子様の健康に十分気を配り見守っていただきました保護者の皆様、心より感謝申し上げます。学校といたしましても残暑が厳しい毎が続きますが、引き続き感染拡大防止に向けての取組と熱中症対策にも配慮しながら教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2学期のスタートにあたって、学校生活の指針としてほしいことをお伝えします。それは、「自分の志（こころざし）を立てる」、「自分の目標を立てる」ということです。ヨーロッパにこんな話があります。森に迷い込んだ2人の男の話です。昔のヨーロッパでは、森は恐怖の対象で人々に恐れられていた場所でした。1人目の男が森の中で、道に迷ってしまいました。先ほど言ったように、当時の人々にとって森は恐ろしい場所でしたが、1人目の男は自信があったので、少しも不安や恐怖を感じることもなく、出口を目指して黙々と歩き始めました。しかし、何日歩いても出口は見つからず、さまようばかりでした。疲れ切った男は立ち止まり、座り込んでしまいました。あたりを見回すと、そこは、道に迷ったもとの場所でした。2人目の男も同じように、森に迷い込んでしまいました。しかし、この男は慌てず、じっくり考えました。そして夜になるまで待ち、あたりが暗くなり、星が出るようになってから、空を見上げて、目標の星を見つけました。その星を頼りに方角を見定めて、歩き始め、何とか森を脱出することができました。話はここで終わりです。

私たちはこの話から何を学んだらいいのでしょうか。中学校時代は、10年後の自分や50年後の自分のため、今、何をすべきかを考える大切な時です。皆さんはこれから先、何十年にもわたって人生という「森」を歩いて行かなければなりません。そのうえで大切なことは、人生の道しるべになる「志」と「目標」を決めることです。「こんな仕事をしてみたい」、「こんなことが出来るようになりたい」というような「志」、「目標」を決めて歩いていけば、途中で道を外れたり、迷ったりしても、慌てたりしないはずで、中学生である皆さんだけでなく、大人である私たちも同様ですが、将来の自分をいつも想像し、そんな自分になるためには今、どうすべきかを考えることがとても大切なことです。小さくてもいいから、何か具体的な目標を決めてください。目標が決まれば、今日の一歩も違うはずで、

話は変わりますが、2学期は、3つの学期の中でも一番長い学期です。授業の1時間、1時間を大切にしながら学力をつけて欲しい。また、新型コロナ対策のため、今年も体育祭は影響を受けそうですが、新人体育大会、各種コンクール、そして、合唱コンクールなど思い出に残る行事も1年間で一番多くあります。テスト関係も定期テストの他に実力テストも予定され、特に3年生の皆さんにとっては進路の選択がいよいよ現実のものになってきます。一番長い学期ですから、たくさんの方に取組んだり、挑戦したりする機会を通して「一生懸命やればやるだけ、学ぶこと、得ることが多い」ということを心と体で味わってください。しかし、一生懸命やれば、辛いことや辛いことにも出会うこととなります。そんなとき決して逃げないで、乗り越えてほしいと強く願っています。そのためには、「志」と「目標」を軸におき、さらに自分自身と自分の周りの人たちを大切にすることです。そうすることで、辛いとき辛いときでも、ひとりではなく、勇気をくれる友だちや、一緒に乗り越えてくれる仲間ができるはずで、そんな友とともに、自分を成長させ、自分に自信をつけてほしいと心から期待しています。そして「自分としてはよくやった」、「自分もまんざらでもない」など自分で自分をほめてあげてください。友だちもほめてください。そんな、みんなでほめ合うことができる明るい2学期にしていきたいと思います。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症は、まだまだ拡大傾向にあり、予断を許さない状況が続いています。ご家庭におかれましても、毎朝の検温、マスク着用、手洗いの徹底等、感染症予防への取組を引き続き、よろしくお願いいたします。